

大神菜鬼ヶ嶽3連勝

紙相撲新聞

第166回本場所
初日～三日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

春ノ翔、西神門、千代鈴も白星先行

西勢之里、越境山が波乱を起こすか

【第一百六十六回本場所初日、三日目】

若ノ嶋の電撃引退報道から3週間余り過ぎた。まだまだ暑く蒸し暑さを感じる9月14日、第166回本場所(令和7年秋場所)が新たな幕を開け、幕内十兩の初日から三日目までの取り組みが満員御礼止めのなか取り行われた。

紙相撲史上初の5横綱の番付となった場所だったが、千代鈴が休場したため5横綱による土俵入りは披露されず紙相撲ファンを残念がらせた。

今場所こそは横綱による絢爛豪華な土俵入りの期待も若ノ嶋の引退により夢と消えたその初回開催は三日目までを取り終えて、初日から3連勝で好スタートを切ったのは横綱大神楽、関脇鬼ヶ嶽、平幕の烏帽子岳の3名が先

頭の立ち四目からの中盤戦に進む事となった。

4 横綱になった
とはいえこれでさ
え史上初の事で上
位の壁の厚さを感じ
させざる番付。先
場所同様に千秋楽

までの活躍に期待がかかる横綱陣のなかにあって、ただひとり白星を3つ重ねたのは先場所の途中休場からの復帰をかける大神楽。

初日は成長著しい初三役新小結に昇進した西勢之里の挑戦を受け、立ち会いで西勢之里の力チアゲをがっちりと受け止める

と左に回り込みながら土俵中央で左を差す目にも止まらぬ速さで一気に土俵の外へ寄り切りを下し白星発進。



続く二日目は先場所の活躍で前頭筆頭番付を上げたきた剛勇山と対戦。ここでも立ち会いから鋭い出足から土俵中央で左を差すと、昨日のデジャヴの様に青房下へ一気に寄り切って2連勝とすると、翌三日目はこちらも前頭二枚目まで番付を戻し三役復帰を狙う元大関のベテラン佐賀ノ海との一番。



剛勇山●(寄り切り)○大神楽

西勢里●(寄り切り)○大神楽

期待がかかる。

関脇の地位で3場所連続7勝を上げ安定した成績を収めた大関復帰を目指す鬼ヶ嶽。初日は磯自慢と対戦し立ち会いでじわっと押し込み磯自慢が胸を合わせに出してきたところに素

鬼ヶ嶽〇(押し倒し)●夢ノ花

鬼ヶ嶽○(押し倒し)●夢ノ花

早くのど輪を決め一
に押し倒しに破り白星
に進すると、翌二日目
の夢ノ花との一番でも
立ち会いで直ぐにのど
輪を差し初日同様に西
土俵に押し倒して2連
勝。

鬼ヶ嶽○(押し倒し)●磯自慢

英箴と三日目は小結の
でも立ち会いから鋭く
のど輪を差すと、両踵
だけで粘る英箴を黒屋
下に押し倒し3連勝の
した。3日とも得意の
右ののど輪を差すと、
相手に反撃の隙を与え
ない完勝の相撲内容で
どこまで白星を重ねて
行けるか、四日目に降
の土俵に注目したい。



鬼ヶ嶽○(押し倒し) ●英 筏

て2人の役力士に続いて3戦全勝を飾ったのは、先場所の途中休場で番付を下位に落とした烏帽子岳。初日は鉄甲と対戦して若手の実力者相手に左を差し寄り切りに下すと、続く二日目は十両から返り咲いた実力者烏海波との一番。

櫻吹雪●(寄り切り)○烏帽子岳

互角の立ち会いから得意の左を取られ万事休すかと思われたが、粘りを見せ土俵際で逆転の引き落としで勝ちを拾い2連勝すると、三日目の櫻吹雪戦でも先手を取り左を差して



↑綱昇進後精彩に欠けた大神楽だったが、今場所は落ちる相撲も影を潜め、初日から横綱で唯一3連勝とし、復活を強くアピールしている。



↑二日目、同門の兄弟子西勢之里との初対戦。休場明けで復調ぶりを示す試金石の取組となったが、出足で圧倒し、周囲を安心させた。

ちの一番でも立
ち会いから素早
く左を差すと一
前に出て、黒房
下に寄り切つて
勝とした。先場
も勝つた相撲は
調時の素早い左
差が復調を見せ
たが今場所はそ
れ以上に得意の
差しが冴え渡り
、全勝優勝しな
うな勢だ。果た
このまま全盛期
の様相を取り続
ける事ができる
か磯ノ海親方か
らも



櫻吹雪●(寄り切り)○烏帽子岳



鬼ヶ嶽○(押し倒し)●英 筏